

スリランカでの出会い

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンドール マダーブ ナラエン

ゴールデンウィーク休暇を利用して、一度行って見たかったスリランカに行ってきた。スリランカはインド亜大陸の南東、インド洋に浮かぶ小さな島国。人口は約2050万人、仏教国として、紅茶の産地として有名。美しい海に囲まれ自然遺産や文化遺産が幾つもある。昔はセイロンと呼ばれていたが、イギリスから独立後暫くして、1978年に現在の名前になった。

今回、私を案内してくれたのはネパール人で18歳位の時、スリランカに渡り、その後僧侶となったスワルナ・プルナザン氏である。20年近くスリランカに住み、修業し、現地のことを知り尽くしていることから彼の案内は安心だった。毎日仏教の話をしてながら聖地を見て回った。スワルナ僧侶が言うにはスリランカでの仏教に対する信仰は格別である。憲法上、仏教を第一の宗教とし、保護し、権限を確保しなければならないと義務付けられているという。

スリランカはこの季節はとても暑い。旅行中の移動はほとんど便利なタクシーであった。タクシー（三輪タクシーも含む）はメーターが付いてないものもあり、乗る前に交渉が必要。運転手の言値は高いが、交渉次第では下がる。暑い時季だからか、一年中がそうなのか、運転手は履物を横に置き裸足で運転している。



三輪タクシー料金の交渉をするスワルナ

ネパールは釈迦の生誕地として知られているが、統計によると仏教徒は10%にも満たさない。圧倒的にヒンドゥ教徒の方が多し。しかしスリランカは逆で70%以上が仏教徒である。これを見ても分かるように国民の仏教に対する信仰は深い。

私が訪れた場所はスリランカのコロombo（現在の首都）、アヌラダプラ（最古の首都）、そしてキャンディ（コロomboの前の首都）である。

コロomboは大都会で現在の首都であり、仏教寺院が沢山ある。カールタラ仏教寺院やガンガラーマ寺院などを訪れた。寺院のお参りや遵守はネパールとよく似ている。礼儀として先ず寺院に入る際、帽子を取り、靴を脱ぎ裸足になる。（これはネパールも同じ）服装は上下とも白いものが良いとされる。肌を露出してお参りするのは良くない。ショートパンツ姿の外国人は腰に巻く布を借り参拝していた。



供え物の花が売られている寺の前で

寺院に入ると仏に捧げる供え物を売っており、信者はそれを買って仏に供え自由な格好でお経を唱えていた。（ネパールではあぐらをかく）信仰深いと感じたのは、寺院前の道路沿いに2~3m間隔で寄付金箱が置いてあって、立ち止まって見ていると、なんと走っているバスや三輪タクシーもわざわざ一時停止し、寄付金箱にお金を入れて行ったのではないかと！スワルナ僧侶はこちらではよく見られる寄付の

やり方であるという。ネパールでは見られない光景である。

寺院からの帰りにバスに乗る機会があった。バスは満員だった。しかし、私たちが乗ると、驚いたことに、バスの運転手の真後ろに座っていた乗客は自然と席を立ち空けてくれた。後で気が付いたが、窓の淵に〈僧侶席〉と書かれてあった。どのバスも運転席の真後ろは僧侶のための席と決まっているのだそうだ。僧侶と一緒に座るまで座ることができた。僧侶に対する特別な配慮を感じた。

もう一つ訪れた町は世界遺産であるアヌラーダプラ。コロンボから 210km 電車で約 4 時間半のところである。その昔の首都で仏教が最初に伝わった町であるという。町には多くの遺跡が点在し一日券 1,775 シリランルピーを払い、広い敷地を一日かけ回った。多くの中は三輪タクシーを使うが自転車で回っている人も見かけた。修学旅行先にもなっているようで子供たちが遺跡の前で長い講義を受けていた。



講義を受けるスリランカの生徒たち

男女とも上下目も覚めるような白い制服だった。広い敷地は仏教遺跡となっているため裸足で歩かなければならず、日中は砂や石が焼けて熱く、歩くのが難しい。



スワルナ僧侶と一緒に黄金寺院の前で

アヌラーダプラから約 136 kmにあるキャンディに行く途中、世界遺産に登録されているダンブッラの黄金寺院に寄った。巨大な仏像の奥を進んだところが洞窟寺院になっており、岩の上からは素晴らしい景色が楽しめた。昔のまま残されている遺跡には外国からの観光客も多かった。



洞窟寺院への入口



岩の上からの眺め

キャンディでは植民地時代に建てられた西洋風の建造物を多く見かけた。コロンボより高地にあり少し涼しい。



英国時代の歴史を感じさせる建物

この町は仏教徒にとって大事なところであるという。ある寺院に釈迦の歯が祭られており仏教徒であれば一度は巡礼したいものだ。入場料は 500 ルピーだが南アジア地域協力連合 (SAARC) のメンバー国民は半額になる。ちなみにどこの寺院や博物館も僧侶は無料となる。



釈迦の歯が祭られている仏歯寺

寺院の真裏に仏教大博物館がある。スリランカを始めネパール、インド、日本、中国、モンゴル、ベトナムなど多くの国々からの仏教にまつわるものを展示している。展示室を見て回っていると、ボディガードを 2 人も付けた人が通った。しかし僧侶のスワルナ・プルナザンを見ると、その人は跪き足元を触れ、僧侶に対する尊敬を表した。その後、この人物は現役の大臣であると知った。展示されてある写真で、この人が僧侶たちと儀式に参加しているのを見た。スリランカの内閣には仏教大臣 (Ministry of Buddha Sasana) というポストがあり、当日はたまたま視察に来たという。

キャンディからコロomboに戻り、日本へ帰るまで時間があつた。スワルナ・プルナザン僧侶からスリランカにはネパールからの尼さんもいるから行かないかと誘われ、コロomboの尼寺、サマスタ・ランカ・ダサシル・マタ・サンガマヤに行った。僧侶たち、尼さんたちとの会話の中で案内してくれたスワルナがボランティアをしている話をし出した。一年前のネパール地震への支援をしているとのことだった。

私もボランティア活動をしていることを話した。まさかその時点でミランクラブの元里子に会うとは想像もできないことだった。途中から話に加わった尼さんの出身がトカ村であることがわかってからは、お互いの質問で、元里子であることが確認できた。ミランクラブネパールのことは知っていても私のことは知らなかったようだ。元里子はサティ・デヴィ・スレスタと名乗った。2003 年から里子になり 10 年前頃から尼さん修業をしていた。スリランカの大学院で勉強を続けるために来ているとのことだった。

スリランカは、毎年多くのネパール人が訪れる。宗教的な目的が多い。スリランカでは公用語が 3 つある。シンハリ語、タミル語、そして英語。日本と同じように小・中学校までは義務教育である。学費は全て無料で、公立高校や大学の学費も免除である。識字率はアジアでは高水準にあり、青年層では 98% 以上である。小さい子供たちから大人まで英語が話せるので、旅行者は不便を感じない。

ネパールの尼さんたちも奨学金を貰いながらスリランカで勉強を続けている。殆どの課目は英語で授業を受けているという。無事に卒業できるのを願っている。



真ん中 3 名が尼さん
左から 2 番目に元里子のサティ・デヴィ
右端は僧侶で全員がネパール人

今回のスリランカ訪問で偶然に出会った元里子の成長と彼女のしっかりとした生き方が嬉しかった。私たちの地道な活動の未来への広がりを見る思いだった。